



愛隣幼稚園.....

園だより

.....14.9月号

おもしろがって

盛りだくさんの秋がやってきました。静かだった幼稚園にも夏期保育には子どもたちの声と笑顔が戻り、いよいよ今週からは本格的なスタートです。日に焼けた子どもたち、そして大人たち。どんな夏休みだったのかなぁと想像します。愛隣の職員には夏の恒例となっていることがあります。一つ目は研修です。一般的な保育のこと、支援の必要な子どもたちのこと、救命講習も受けています。新しい知識を得て、それをもとに理論や実践を見直すことは欠かせません。世の中も幼児教育の世界も、子どもたちも日々変化していくのですから、私たちの頭も新しくされなければ発展がありません。更にはどうして？なぜ？面白そうだしやってみよう！という保育者自身の好奇心や挑戦するエネルギーが加わって今日が、明日がおもしろくなっていきます。研修は夏の大切な時間です。そしてもう一つ、私たちが夏に決まっていたのが職員旅行です。毎月、地味に積み立て出かけます。昨年は北海道、今年はぐっと近場で箱根でした。この旅行で先生たちが見せる姿が実に興味深いのです。かくいう私もその中の一人ではありますが、「幼稚園の先生がおもしろい」とつくづく感心(?)してしまいます。今年のエピソードからそんな先生たちをご紹介します。登山電車で強羅へ向かい、強羅公園へ立ち寄りしました。夏休みですから子供たち向けに「世界のカブトムシ・クワガタムシ展」という催しが開催されていました。公園の中は自由行動でしたが、ほとんどの先生たちが¥300 の加算料金を支払いこれを見学。「わぁぁぁ〜。」「これ見て！」「こんなにでかいんだ。」「ピカピカだよ！」「磨いてるのかなぁ？」「すごいね〜、おもちゃみたいだね。」「こっち、ここ、ここ。」「えっ？」「さわっていいの？」「さわってみたい。」「・・・その賑やかなこと。もちろんまだ夏休みですから周りには子どもたちがいましたが、私たちの方が遥かに興奮していて、どちらが子どもだか・・・生きて動いているネプチューンオオカブトやギラファノコギリクワガタを実際に見たら、子どもたちはきっとこんな風に驚いて、そして夢中になるんだろうなぁということがよくわかるのです。別行動で少し離れたお茶室へ向かった先生たちが「あの声は、きっと愛隣幼稚園ってわかりました。」と、その賑やかさの度合いを教えてくださいました。さらに、その帰り。一駅だけとせっかくだからとケーブルカーに乗ることになりました。しばしの待ち時間。登りのケーブルカーを見送ったあとの路面からケーブルが消えてなくなっていることを発見！理事長の投げかけから路面を這うケーブルとこの乗り物が動く仕組みについて頭の体操。「なるほど、そういうことか。」(そんなことも知らないのか、とお思いの皆様にはお恥ずかしいことですが) 考えてみるとおもしろい、わかると楽しいものです。そしてこれはいつかどこかであそびのヒントにもなりそうです。さて、下りのケーブルカーがやってきました。車内は空いていましたが、ふと気が付くと連結された2つの車両の一番前と一番後ろには、我が愛隣の先生たちが張り付いて夢中で写真を撮っています。子どもたちが一番好きなその場所で。これを客観的に見てしまった私は思わず苦笑してしまいました。実は、大人になっている私たちの中にも、子どもたちと同じようにおもしろがったり、驚いたり、夢中になったりするスイッチはいっぱいあるのです。「子どもの目線で」とはよく言われることですが、このスイッチを「ON」にできれば、それはあまり難しいことではないように思います。子どもが何を見て、何を面白いと感じ、何に夢中になっているのか。それを共感できることも研修でのスキルアップ同様、私たちに求められていることです。一子どもたちの主体的なあそびを中心に―それが愛隣幼稚園の保育です。主体的なあそびの中にこそ、この子どもたちの発見や驚きや夢中のスイッチが点在しています。このスイッチを「ON」にしたいのです。ここに不可欠なのが一緒におもしろがって夢中になる大人(仲間)です。ご家庭の中ではそうそうおもしろがってもいられないのが現実ですが、愉快的な愛隣の職員たちと一緒に、子どもたちのおもしろスイッチを見つけていきましょう。それで今日が愉快的な1日になったら子育てはもっと楽しめる、そう願っています。

この2学期も子どもたちを取り巻く大人たちとして、共に心を動かしおもしろがって子育てを楽しんでいきたいと思います。

おもしろがって
子どもたちと共に

「HAPPY！」と誰もが感じて
いっぱい笑って